



SCI-FI REVOLTECH

SERIES No.

013 | モゲラ

SCULPTED BY TAKUMA KATSUO

PRODUCED & MANUFACTURED BY KAIYODO

日本特撮映画初めての 巨大ロボットの勇姿!!

■原案製作：田熊勝夫 ■全高：約145mm
 マーカライトファープ造型：渡辺結樹 (G-tempest)
 ■可動箇所：全19箇所
 ■ジョイント使用数：15個 (10mm ジョイント×5/8mm ジョイント×7
 8mm ダブルジョイント×1/6mm ダブルジョイント×2)

日本特撮初の巨大ロボットが東宝のSF特撮映画「地球防衛軍」(1957)に登場したモゲラであった。ミステリアンの超科学を予感させる先触れとして地中から出現し、その両目から熱線を発射し、地球軍の追撃砲や火炎放射器や大砲の攻撃にピクともせず、前進を続ける。大量のダイナマイトで鉄橋ごと吹き飛ばして、倒されるとその動きを止める。詳しく調べてみると、そのボディは地球には無い合金で作られ、無線操縦でコントロールされたロボットであると判明する。「地球防衛軍」の鮮やかな導入部であった。キャタピラのような段付きのメタリックボディ、円塔を両サイドから斜めに切り込みを入れたような腕、そしてのごさりの羽のような背のウイング、殆ど映像では見えない透明パーツの口、頭の上のアンテナ、熱光線を発射する両目、ともかく個性あふれるメカデザイン。土を吐き出す、太く途中で断ち切った尻尾も実にユニーク。渡辺明特撮美術監督のデザインで、小松崎茂メカデザインの円盤やドーム要塞、空中軍艦アルファ号やマーカライトファープのSFタッチのスマートさと比べて、いかにも土木工事的の、ミステリアンが使用する建設メカの無骨さが似合っていた。ただ宇宙合金を表す銀色と金色、メタリックブルーのカラーリングは特撮リボルテックもこだわった。まさにカラーSF映画に映える宇宙メカニックだった。入魂の彩色を見てください。

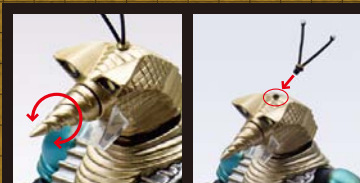
**9/1
発売
¥2,850**



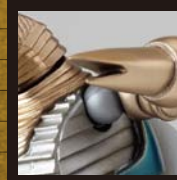
モゲラは単なる作業機械ではない! アクションポーズも可能!

DETAIL of FIGURE

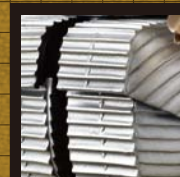
KAIYODO



頭部のドリルは回転、アンテナは好みの向きに取り付けが可能。特徴的なアコにはクリアパーツを使用



各関節は大きく可動し、さまざまなポーズをとらせることが可能



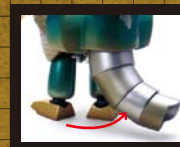
キャタピラをイメージしてデザインされたボディを忠実に造型、全身にペイントされた金属色がメカニックとしての魅力を表現



森林をイメージしたディスプレイ用台座が付属



ミニサイズの敵役ミステリアンフィギュアが付属

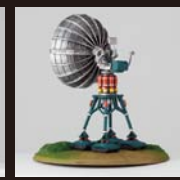


ブロックごとに分割された尻尾は回転することで向きを変えることができる

OPTION PARTS



①ミステリアンフィギュア×1 ②マーカライトファープ×1 ③マーカライトファープ用スタンド×1 ④ディスプレイスタンド×1 ⑤ネームプレート×1



ミニサイズのマーカライトファープ (ミステリアンを攻撃する防衛軍の兵器) が付属。細部にまで精密なディテールが施されている